



令和5年度(第78回)文化庁芸術祭オープニング・オペラ
新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ 開幕公演

プッチーニ

修道女アンジェリカ

ラヴェル

子どもと魔法

新制作

Suor Angelica / L'Enfant et les Sortilèges

2023年10月1日(日)~10月9日(月・祝)

会場:新国立劇場 オペラパレス 2023年8月5日(土) 前売開始



プッチーニの描く神秘的な奇蹟と、ラヴェルのファンタジーの洒脱な一夜。共通テーマは“母子の愛”

プッチーニ「三部作」から『修道女アンジェリカ』とラヴェルのファンタジー・オペラ『子どもと魔法』をカップリングして上演します。

プッチーニの『修道女アンジェリカ』は、我が子と引き離されたアンジェリカの孤独と絶望、そして神秘的な奇蹟がプッチーニならではの豊饒な音楽で描かれる感動的な作品。女声のみのキャストが織り成す精緻な音楽、そして最終シーンの混声合唱を伴う神々しい音楽の美しさは特筆ものです。対する『子どもと魔法』は“管弦楽の魔術師”として、また洗練されたバレエ音楽でも知られるラヴェルが「ファンタジー・リリック」と呼んだ、子ども目線で子どもを取り巻く世界を描いた幻想オペラ。ラヴェルならではの華麗な音楽で、子どもの心の冒険が描かれます。

緻密な読み込みに定評ある演出家・栗國淳と指揮者・沼尻竜典のタッグは、『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』に続く顔合わせ。アンジェリカにはドラマティックな表現を武器にミラノ・スカラ座などで大活躍中の若手キアラー・イゾットン、公爵夫人に芸達者のマリアンナ・ピッツォラート、子どもには同役で世界の音楽シーンを賑わせているクロエ・ブリオ、お母さんにフランスを拠点とする齊藤純子が出演。そして膨大なキャラクターが登場する両作品に、オペラ界旬の歌手たちが華やかに揃います。内省的な『アンジェリカ』と遊び心いっぱいの『子どもと魔法』。ダブルビルならではの贅沢で洒脱な一夜をお楽しみください。

<資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

プッチーニの神々しい音楽とラヴェルのモダンな世界。

人間の愛の中でもっとも純粋な“母と子の愛”が結ぶダブルビル

“フィレンツェ”が鍵となった『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』、童話の世界を下敷きにした『夜鳴きうぐいす／イオランタ』に続く、ダブルビル(2本立て)の第3弾。母の子への愛情から生まれる贖罪の物語を描く『修道女アンジェリカ』と、子の母への愛が悪夢から醒める呪文となる『子どもと魔法』をカップリングして上演します。

『修道女アンジェリカ』(1918年)は、プッチーニ晩年の「三部作」の二作目で、ヴェリズモ的な悲劇『外套』、コメディの『ジャンニ・スキッキ』と対比を成す、宗教的、感動的な作品。ラストシーンの混声合唱を除き登場人物すべてが女声だけで演じられ、静謐で叙情的な空気に満ちた作品です。修道女たちの穏やかな情景に始まり、上流階級にしながら未婚の母となり、ひとり修道女となったアンジェリカの過去が明らかになっていく公爵夫人との緊迫したやり取り、アンジェリカの絶望と悲嘆へのドラマティックな展開、そして贖罪の思いと神秘的な奇蹟のシーンが、プッチーニならではの雄弁な管弦楽で一気に表現されます。

一方、ラヴェルの『子どもと魔法』(1925年)は作曲家自身が「ファンタジー・リリック」と呼んだ、オペラとバレエの要素を融合させて作曲された作品。時代の寵児コレットの台本をもとに、いたずらっ子でお母さんを困らせていた子どもが身の回りの物や生き物たちに仕返しされる悪夢の世界へ追い込まれ、思わず口から出た「ママ」という言葉をきっかけに悪夢から解放される物語。子ども目線で展開する趣向も楽しく、子どもを取り囲む森羅万象がラヴェル得意の華麗な管弦楽や軽妙なリズムと和声、時にエキゾチックな節回しで息を吹き込まれ、活き活きと動き出します。

「人間の愛の中でもっとも純粋な“母と子の愛”」(大野和士芸術監督)をキーワードに、20世紀初頭ヨーロッパの彩り豊かな音楽を、ダブルビルならではの洒落なコントラストでお楽しみいただきます。

沼尻竜典×栗國淳の鉄壁のタッグに、国内外の歌手が贅沢に勢揃い

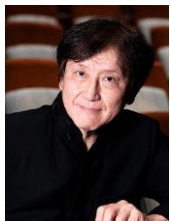
指揮・演出は国内きってのオペラ指揮者であり、近代作品、20世紀作品も得意とする沼尻竜典と、オペラの読み込みの名手栗國淳の鉄壁のタッグが『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』に続いての登場。内省的な『修道女アンジェリカ』からオペラならではの仕掛けいっぱい遊び心あふれる『子どもと魔法』へと鮮やかに展開する、ダブルビルならではの音楽的、視覚的なコントラストが楽しみです。

アンジェリカ役には、トスカなどドラマティックな役柄でスター街道を駆け上がり、スカラ座、メトロポリタン歌劇場などで主演を重ねるキアラ・イゾットンが、21年『トスカ』以来の出演。公爵夫人には昨年『ファルスタッフ』クイックリーで圧巻の存在感を示した、芸達者なマリアンナ・ピッツォラート。『子どもと魔法』の子ども役には、同役を特に得意とし、世界中の歌劇場、オーケストラから引く手あまたのフランスのソプラノ、クロエ・ブリオが登場。お母さん役には情熱を秘めた毅然とした表現が好評を博す齊藤純子がフランスから来日します。小林由佳、河野鉄平、三宅理恵ら近年重要な役で成功が続く歌手に加え、塩崎めぐみ、郷家暁子、中村真紀、伊藤晴、盛田麻央、十合翔子らオペラ界で注目を集めるフレッシュな歌手たちが華やかに揃うのも楽しみです。

ダブルビルならではの洒落な舞台、そして贅沢なキャストがシーズン開幕を華やかに彩ります。一粒で二度ならず、何重何倍にも楽しめる『修道女アンジェリカ／子どもと魔法』にご期待ください。



大野和士芸術監督からのメッセージ



『修道女アンジェリカ』は、修道院の中での事件として登場人物が全員女性であるという、「三部作」の中でも特異な存在です。主人公のアンジェリカは未婚の母だったため、子どもと引き離されて修道院へと入ります。子を思い続けて過ごした彼女は7年後に息子の死を知り、悲しみのあまり息を引き取って昇天しますが、天国に迎え入れられる際の音楽はプッチーニのオペラのどの作品よりも、神々しさに満ち溢れています。

一方、ラヴェルの『子どもと魔法』は、いたずらをしたり、悪いことばかりしてお母さんを困らせていた子供が、いじめていた動物たちや壊した食器や時計など、自分が乱暴に扱っていたもの全てに仕返しを受け追い詰められるという「悪夢」の世界に追いやられていきます。そんな悪夢のような状況から男の子を助けてくれる呪文は、最愛の「ママ」という言葉でした。今回のダブルビルは、人間の愛の中でもっとも純粋な“母と子の愛”をテーマにしています。

指揮には16年間びわ湖ホール芸術監督を務めオペラを極めていく沼尻竜典、アンジェリカには名花キアラ・イゾットン、公爵夫人には気品を湛えたマリアンナ・ピッツォラート、また『子どもと魔法』の子ども役として世界中で引く手あまたのクロエ・ブリオ、そしてそれに加えて齊藤純子、河野鉄平、塩崎めぐみ、郷家暁子、小林由佳という日本の実力派歌手を揃え、栗國淳による堂々の新演出でお届けします。

<「修道女アンジェリカ」あらすじ>

夕暮れの修道院。礼拝を終え修道女たちは、アンジェリカは面会を待ち続けているのだと噂する。ついに面会の夫人が訪れる。アンジェリカの叔母の公爵夫人である。夫人はアンジェリカの妹の結婚のため、両親の遺産を放棄し妹へ与えるようにと遺産整理の手続きに来たのだ。アンジェリカは未婚の母であり、そのために7年前、子どもと引き離され修道院へ入れられていた。妹の結婚を喜び、わが子の様子をおずおずと尋ねるアンジェリカに、公爵夫人が子どもは2年前に亡くなったと伝える。悲嘆にくれるアンジェリカ。深夜、アンジェリカはひっそりと薬草を煎じて毒薬を作り、息子のもとへ旅立とうと毒をあおるが、すぐに自殺の大罪を犯しては天国へ行けないことに気づき絶望する。罪を悔い、聖母マリアに祈りを捧げるアンジェリカに奇蹟が起こり、天使の合唱の中、アンジェリカは息子に導かれ息を引き取る。

<「子どもと魔法」あらすじ>

宿題がいやで文句だらけの男の子。お母さんは怒って、味気ないパンと苦いお茶をおやつに置いていく。男の子はポットやカップを割ったり、リスや猫をいじめたり、暖炉をかき回してやかんを引っくり返したり、壁に落書きしたり、時計を壊したり本を破いたりと暴れ放題。すると椅子が動いて「乱暴な子はまっぴら」とダンスを始める。時計も怒るし、ポットもカップも脅かすし、「悪い子を焼き殺そう」と火まで追いかけてくる。壁紙から落書きの羊飼いや、破れた本からおとぎ話のお姫様、そして教科書から算数の問題を出す妙なおじいさんまで登場。男の子が庭に逃げ出すと、寄り掛かった木が「お前がつけた傷だ」とうめくのでびっくり。トンボやこうもり、カエルと、いじめられた生き物たちも次々に集まる。男の子が思わず「ママ」と叫ぶと、生き物たちが飛びかかって大騒ぎに。怪我してしまったリスを男の子が手当てすると、生き物たちは子どもの優しいところに気づいて、気を失った男の子を助けて家まで運んで「ママ」と声をかけ、「坊やはいいい子になった」と言って消えていく。月明かりのもと、目を覚ました男の子が「ママ」と呼びかける。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】沼尻竜典

NUMAJIRI Ryusuke

神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニー音楽監督、びわ湖ホール桂冠芸術監督。ベルリン留学中の1990年、ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以来、ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、ミラノ・ヴェルディ響、シドニー響、チャイナ・フィル等世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内ではNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、新星日本響、東京フィル、名古屋フィル、日本フィル、群馬響、日本センチュリー響のポストを歴任。2011年にはサイトウ・キネン・オーケストラにデビュー。ドイツではリューベック歌劇場音楽総監督を務め、オペラ公演、リューベック・フィルとのコンサートの双方において数々の名演を残した。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、パーゼル歌劇場、シドニー歌劇場等へも客演。16年間芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、17年より4年間かけ《ニーベルングの指環》を上演、空前の成功を収めた。14年には横浜みなとみらいホールの委嘱でオペラ『竹取物語』を作曲・初演、国内外で再演されている。これまで出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、毎日芸術賞、中島健蔵音楽賞、文化庁芸術祭優秀賞、芸術選奨文部科学大臣賞、ENEOS音楽賞洋楽部門本賞等を受賞。2017年春には紫綬褒章を受章している。新国立劇場では『カルメン』『フィガロの結婚』『鹿鳴館』『トスカ』『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』、鑑賞教室『カルメン』『トスカ』を指揮している。



【演出】栗國 淳

AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法を M.ゴヴォーニに師事。新国立劇場では F.ゼツフィレッリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場オペラ『アイナダマール』(日本初演)『セビリアの理髪師』、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピーアデ』など多数の作品を手掛ける。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロベニア国立マリボル歌劇場『ホフマン物語』を演出している。2011年度エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』『チェネレントラ』、小劇場オペラ『外套』を演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所プログラムアドバイザー兼アルテ・シェニカ講師。エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。



『修道女アンジェリカ』 Suor Angelica

【アンジェリカ】キアラ・イゾットン(ソプラノ)

Chiara ISOTTON

イタリア・ベッルーノ出身。生地で学んだ後、ヴェネツィアのベネデット・マルチェッロ音楽院を卒業。2013年、スポレートコンクールに優勝し、スポレート・ドゥエ・モンディ音楽祭『トスカ』タイトルロールに出演。同年ミラノ・スカラ座アカデミーに入り、メータ指揮『アイダ』巫女でミラノ・スカラ座にデビュー。15年にはアカデミーを修了し、スポレート歌劇場で『ラ・ボエーム』ミミに出演した。これまでにフェニーチェ歌劇場、ピアチェンツァ歌劇場『トスカ』タイトルロール、サッサリ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』レオノーラなどに出演。近年ミラノ・スカラ座『マクベス』マクベス夫人、ヴェローナ歌劇場『修道女アンジェリカ』タイトルロール、パレルモ・マッシモ劇場『トスカ』、マルセイユ歌劇場『ドン・カルロ』エリザベッタ、トゥールーズ・キャピトル劇場『メフィストフェレ』マルゲリータ、トラパニ音楽祭『トスカ』タイトルロールフェニーチェ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、ミラノ・スカラ座『フェドーラ』タイトルロール、『アンドレア・シェニエ』コワニー伯爵夫人と、スカラ座をはじめとする主要劇場へ次々に出演。22年年末にはメトロポリタン歌劇場へ『フェドーラ』タイトルロールでデビューした。新国立劇場では21年『トスカ』タイトルロールに出演している。



【公爵夫人】マリアンナ・ピッツォラート(メゾソプラノ)

Marianna PIZZOLATO

イタリア生まれ。ロッシーニのスペシャリストとして活躍し、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルへ2003年の『ランスへの旅』でデビュー以来、『タンクレディ』『アルジェのイタリア女』『セビリアの理髪師』『エルミオーネ』『チェネレントラ』など数多く出演している。『チェネレントラ』でウェールズ・ナショナル・オペラ、パリ・オペラ座、『セビリアの理髪師』はボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、チューリヒ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、『アルジェのイタリア女』でボローニャ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、さらにメトロポリタン歌劇場などに出演。リセウ大劇場、サン・カルロ歌劇場、英国ロイヤルオペラなどで『皇帝ティートの慈悲』『コジ・ファン・トゥッテ』『ナブッコ』などに出演しているほか、カヴァッリ、モンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、ヘンデルなどのバロック作品の出演も多く、ザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、リセウ大劇場に加えて多くのバロックの演奏団や音楽祭に招かれている。宗教曲を中心としてコンサートのソリストとしても活躍し、ムーティ、ジェルメッティ、パツパーノ、ガッティ、ビシュコフ、ゼッタらと共演、録音も数多い。新国立劇場へは23年2月『ファルスタッフ』クイックリー夫人でデビューした。



『子どもと魔法』 L'Enfant et les Sortilèges

【子ども】クロエ・ブリオ(ソプラノ)

Chloé BRIOT

フランスの若手ソプラノ。『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『子どもと魔法』子どもでシカゴ交響楽団、ロサンゼルス・フィル、フランス放送フィル、フィルハーモニア管弦楽団と共演し、急速に国際的な注目を集める。パリ国立音楽高等学院で学ぶ。2014年エクサン・プロヴァンス音楽祭アカデミーHSBC賞に選出。UFAM国際声楽コンクール新人賞受賞。モーツァルトやフランス・オペラをレパートリーとし、特に『子どもと魔法』子どもに数多く出演。これまでに、モネ劇場、オランダ国立オペラ『アルチーナ』オベルト、グラインドボーン音楽祭ツアー公演『ペレアスとメリザンド』イニョルド、リヨン歌劇場、リール歌劇場『にんじんの王様』、マルセイユ歌劇場『天国と地獄』キューピッド、ヴェルサイユ王室歌劇場『ラ・ボレアード』セミレ、アンジェ＝ナント・オペラ、ディジョン歌劇場『リトル・ニモ』少年ニモに、エクサン・プロヴァンス音楽祭、モネ劇場、ディジョン歌劇場、ボルドー歌劇場で『ピノッキオ』人形などに出演している。19年にはパリ・オペラ座『魔笛』パパゲーナ、オペラ・コミック『L'Inondation(洪水)』女、リヨン歌劇場『にんじんの王様』ロゼ・デュ・ソワールに、21年にはシャンゼリゼ劇場、コンピエーヌ劇場『ペレアスとメリザンド』イニョルドに出演。22/23シーズンはシャンゼリゼ劇場、トゥーロン歌劇場、ディジョン歌劇場『ラ・ペリコール』グアダレーナ/マヌエリータ、オペラ・コミック、ルクセンブルク歌劇場『L'Inondation(洪水)』女に出演した。新国立劇場初登場。



【お母さん】齊藤純子(メゾソプラノ)

SAITO Junko

東京都出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで学ぶ。以後ボルドー大劇場、ナポリ・サンカルロ劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、南チロル音楽祭、チロル音楽祭、サンタンデル音楽祭など欧州各地で活躍。近年ではびわ湖ホール『神々の黄昏』ノルン2、ベルカント・オペラ・フェスティバル in ジャパン『ジュリエッタとロメオ』アデーリアに出演。オペラでは『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『パルジファル』クンドリー、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『フィデリオ』レオノーレ、『トスカ』『アルツィーラ』『カルメン』タイトルロールなど、コンサートでもモーツァルト『ハ短調ミサ』、ハイドン『天地創造』、フォーレ、『ドヴォルザーク、シューマン』『レクイエム』、ベートーヴェン『第九』『荘厳ミサ』、ロッシーニ、ペルゴレージ『スターバト・マートル』などのソロを務め、シェーンベルク、ラヴェルの歌曲、さらにベリオ、エトヴェシュといった現代曲まで手掛けている。『アルツィーラ』『ニーベルングの指環』などCD、DVDも世界各国で発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ピアンカ、『チェネレントラ』ティーズベに出演した。藤原歌劇団団員。



令和5年度(第78回)文化庁芸術祭オープニング・オペラ
新国立劇場 2023/2024 シーズン オペラ開幕公演
ジャコモ・プッチーニ 修道女アンジェリカ 全1幕<イタリア語上演>
モーリス・ラヴェル 子どもと魔法 全2部<フランス語上演>
<日本語及び英語字幕付>
Suor Angelica/L'Enfant et les Sortilèges

【公演日程】2023年10月1日(日)14:00/4日(水)19:00/7日(土)14:00/9日(月・祝)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:29,700円・A:24,200円・B:17,600円・C:11,000円・D:7,700円・Z:1,650円

【前売り開始】2023年8月5日(土)

※予定上演時間 約2時間(休憩含む)

指揮	沼尻竜典
Conductor	NUMAJIRI Ryusuke
演出	栗國 淳
Production	AGUNI Jun
美術	横田あつみ
Set Design	YOKOTA Atsumi
衣裳	増田恵美
Costume Design	MASUDA Emi
照明	大島祐夫
Lighting Design	OSHIMA Masao
振付	伊藤範子
Choreographer	ITO Noriko
舞台監督	高橋尚史
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito

『修道女アンジェリカ』 Suor Angelica

アンジェリカ	キアラ・イソットン
Suor Angelica	Chiara ISOTTON
公爵夫人	マリアンナ・ピッツォラート
La zia principessa	Marianna PIZZOLATO
修道院長	塩崎めぐみ
La badessa	SHIOZAKI Megumi
修道女長	郷家暁子
La suora zelatrice	GOKE Akiko
修練女長	小林由佳
La maestra delle novizie	KOBAYASHI Yuka
ジェノヴィエツァ	中村真紀
Suor Genovieffa	NAKAMURA Maki
オスミーナ	伊藤 晴
Suor Osmina	ITO Hare
ドルチーナ	今野沙知恵
Suor Dolcina	KONNO Sachie
看護係修道女	鈴木涼子
La suora infermiera	SUZUKI Ryoko
托鉢係修道女1	前川依子
Prima cercatrice	MAEKAWA Yoriko
托鉢係修道女2	岩本麻里
Seconda cercatrice	IWAMOTO Mari
修練女	和田しほり
La novizia	WADA Shihori
労働修道女1	福留なぎさ
Prima conversa	FUKUDOME Nagisa
労働修道女2	小酒部晶子
Seconda conversa	OSAKABE Akiko

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱	世田谷ジュニア合唱団
Children Chorus	Setagaya Junior Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

『子どもと魔法』 L'Enfant et les Sortilèges

子ども	クロエ・ブリオ
L'Enfant	Chloé BRIOT
お母さん	齊藤純子
Maman	SAITO Junko
肘掛椅子／木	田中大揮
Le Fauteuil / Un Arbre	TANAKA Taiki
安楽椅子／羊飼いの娘／ふくろう／こうもり	盛田麻央
La Bergère / Une Pastourelle / La Chouette / La Chauve-Souris	MORITA Mao
柱時計／雄猫	河野鉄平
L'Horloge Comtoise / Le Chat	KONO Teppei
中国茶碗／とんぼ	十合翔子
La Tasse Chinoise / La Libellule	SOGO Shoko
火／お姫様／夜鳴き鶯	三宅理恵
Le Feu / La Princesse / Le Rossignol	MIYAKE Rie
羊飼いの少年／牝猫／りす	杉山由紀
Un Pâtre / La Chatte / L'Écureuil	SUGIYAMA Yuki
ティーポット	濱松孝行
La Théière (Wedgewood noir)	HAMAMATSU Takayuki
小さな老人／雨蛙	青地英幸
Le Petit Vieillard / La Rainette	AOCHI Hideyuki

報道用資料

2023/2024 修道女アンジェリカ／子どもと魔法

芸術監督 大野和士
Artistic Director ONO Kazushi

主催 文化庁芸術祭執行委員会／新国立劇場

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/suorangelica/>



【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

- * Z席 1,650 円: 公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1 人 1 枚。電話予約不可。
- * 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp>
東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より 1 駅、初台駅直結。

